

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300685		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	大槻町 けやきの里		
所在地	福島県郡山市大槻町字北ノ山22-3		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年に1回の誕生日は、居宅担当者がご本人様の今までの生活歴や想い、ご家族の意見等を取り入れ料理や装飾、余興等、心を込めて、行っています。また、敬老会やクリスマス会等、チーム一丸となって準備をすることで、団結力を深め、仕事を楽しく頂いています。コロナ禍で外出が制限されている為、けやきの里の事業所で、バーベキューや手作りラーメン屋、夏祭りなどの季節に合わせた行事を楽しく行っています。法人の福利厚生は充実しており、資格応援制度や介護福祉士勉強会、内部研修等を通して知識を深める体制が出来ています。法人代表者が自ら会議や行事に参加し、入居様や職員の生の声を聞き、運営に活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 誕生会や敬老会など利用者の祝いの行事に力を入れている。特に、誕生会は利用者の誕生日に行い、本人の希望や家族の意見により職員が特別料理を作り、職員による余興を行うなど事業所を上げて一大イベントとして実施し、職員全員が利用者の思いや人生を改めて振り返る日に行っている。
2. 利用者のヒヤリハットや事故について、細かく分類し原因分析や対策を検討して全体会議で周知を図るとともに運営推進会議に毎回報告を行い、事故等の解消に向けた取り組みを行っている。
3. 町内会に加入し、一斉清掃には管理者が参加している。また、現在はコロナ禍のため中断しているが、事業所の交流室を地域に開放し百歳いきいき体操や町内会の会議などが行われている。百歳生き生き体操には、利用者も参加し地域住民と交流しているなど積極的に地域交流に努めている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体での理念があり、入社時に理念についての研修会を行い、全職員が理解できるように努めています。毎月の全体会議で、基本理念を唱和し、共有しています。理念にそったチーム目標を立案し、取り組んでいます。	法人の理念を事業所の理念としている。隣接のデイサービス職員と合同で開催している毎月の全体会議の冒頭で理念を唱和し、職員への浸透を図っている。また、毎年、理念に基づきグループで目標を立て実践につなげており、毎月開催しているユニット会議では理念に沿った支援を実施しているかを話し合い、理念の共有を図っている。	認知症対応型生活介護の事業所は、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作ることが求められているため、職員全員で地域密着サービスの意義について話し合い、事業所独自の理念を策定することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の町内会の行事は中止になっているが、早朝の清掃などに参加したり、交流は図っていると思います。又、日々の挨拶も出ています。	町内会に加入し、隣家と回覧板の受け渡しを行っている。また、管理者は年に1～2回実施される地域の一斉清掃に参加している。コロナ禍で中断しているが、事業所内の交流室を地域に開放し、町内会の会議や百歳いきいき体操が行われている。百歳いきいき体操には利用者も参加し、地域住民と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のケア会議などに参加し、認知症予防に関して、意見などをしております。コロナ禍の前には、けやきの里の地域交流室でいきいき百歳体操の場所を提供しておりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	現在コロナ禍で運営推進会議は中止して、書面での報告になっています。ご意見など頂いてはいないです。	これまで、2か月に1回、事業所において運営推進会議を開催し、入浴や排泄の場面で行える限り同性介助に努めるようにするなど委員(家族)から出された意見を運営やケアに活かしてきた。コロナ禍以降は書面開催とし、資料を各委員に送付しているが、意見はもらっていない。	コロナ禍により集合して会議を開催することができず、長期間に渡り委員と意見の交換ができないでいる。委員の意見を運営に活かすために、双方向の会議となるように意見を返送してもらい議事録を送付するなどの取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスに関する対応の方法をメールで確認し、市役所に確認しながら実践しています。	市からはコロナ関連の感染予防対策などの情報をメールや文書で受けている。事業所からは、利用者の介護認定の更新申請時に市を訪問し、毎月、入退居の状況報告を行っているが、担当者との接触は少ない。市の担当者とは、地域包括支援センター職員や介護サービス相談員を介して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルは、事務に保管しています。定期的に会議などで不適切ケアチェックリストをもとに自分達のケアに問題がないか振り返りをしております。玄関の施錠は、夜間以外行っていない。	身体拘束適正化に係る委員会を3か月に1回開催し、定期的に不適切ケアチェックリストを実施し、集計結果と内容について職員会議で話し合い、日頃のケアの振り返りを行うことで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックは、その都度管理者等が注意を促して防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルは、事務に保管しています。事業所内で、内出血などあれば、どのようになったのか検証し、再発防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、管理者は理解しているが、他の職員は理解できていない所があるので、今後理解を深めるため勉強会を行い、支援できるように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族様に契約の内容を確認しながら説明し、分からない事があればすぐに連絡いただける様に伝えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社で、ご意見、要望をお聞きし、苦情や要望に対して、運営に活かすように努めております。	利用者の意見は、日頃の会話を通して把握に努めている。話しづらそうな時は居室などの個室で聞くようにしている。家族の意見は面会時やケアプランの説明の時に聞くようにしている。また、今年から本社で家族アンケートを実施し、意見の把握を行い運営に活かす取り組みを始めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人面談やユニット会議、全体会議をして職員の意見や提案を聞き、運営に活かしています。	毎月開催しているユニット会議や全体会議で職員が意見を述べる機会を設け意見や要望を聞いている。また、年に1～2回は管理者が個別面談を行い、意見や要望の把握に努め、出された意見は利用者のケアや業務改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年2回の人事考課を行い、代表者に報告しています。また、行事やイベントなどで、職員のやりがいに繋がっています。全体会議会議のあとに、リーダー会議を行い、意見などを引き出して、運営に活かしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、。非常勤職員研修、役職者研修、介護福祉士受験対策講座などの様々な内部研修を企画しています。また、認知症実践者研修などの外部の研修も受ける機会があります。資格応援制度もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム協議会に加入し、情報交換等を行う機会があります。コロナ禍のため勉強会や相互訪問などは出来ていません。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査の際に、ご本人様やご家族様から不安な事や意見・要望を聞いています。入所後もお話する機会を作り、寄り添った介護に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査などで、ご家族の不安な事や要望を確認し、入居後もグループホームで安心して生活できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのご案内をする時に、ご家族様が必要としている支援、経済面を考慮し、小規模多機能居宅介護などのサービスも説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご入居様と会話を楽しんだり、家事を一緒に行う事で、一緒に笑いあったり、喜んだりする関係性です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限されていますが、誕生日会は、ご家族様からお手紙やプレゼントを用意されたりします。病院受診の際は、通院に協力を頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会が制限されていますが、友達や馴染みの方が来所され、窓越しにて交流しております。	これまで、家族の協力を得て外泊・外食などを支援してきたが、コロナ禍以降は自粛してもらっている。なお、馴染みの美容室へは、家族の協力のもと客の少ない日時を選んで利用してもらっている。また、家族や友人、知人とは窓越しの交流を図り馴染みの関係が途切れないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様同士の関係性を把握し、トラブルが発生しそうな時には職員が間に入り、一緒にレクリエーションや家事をすることで楽しんだりしております。ご入居様同士でも出来ない所をお手伝いしたり助けあっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、告別式に参加して、写真を貼ったボードを送らせて頂いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者や主任、居室担当者を中心に、入居様様の要望を聞き思いに応えるように努め、ご家族様に意見など確認しながら、本人本位で検討しています。チームとして情報の共有は出来ていないです。	利用者の思いは、家族からの情報をもとに居室や浴室など2人だけになる場面で利用者と一緒に話しながら把握するように努めている。意思表示が困難な利用者の思いは、家族から得た情報に加え、職員同士で情報交換を行い本人の表情や反応から利用者本位に推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や契約前に得た情報をもとに、グループホームで生活している中から得た情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録シートや申し送り、入居様様を理解し、職員同士で情報を共有し生活歴に合わせたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には、現状をお伝えしご家族様の意見やご入居様の要望をくみ取り、ご本人様の意見表出が難しい場合は日頃の生活の様子を見て、職員の情報をもとに介護計画立案を行っています。	利用者や保護者の希望を踏まえアセスメントを行い、利用者が困っていることを課題にあげ管理者が担当スタッフと協議して作成している。また、モニタリングも同様に行っている。他の職員の意見は担当スタッフが情報収集をして協議に臨むことで反映されている。利用者の状態に大きな変化があった場合は、全員で協議して決めている。	ケアプランに基づくサービス提供と実施の記録が職員に浸透しておらず不十分である。職員のケアプランについて理解を深め、プランに基づくサービスの提供や記録について職員に周知し実践に努めることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居様事に生活記録シートに記入し、毎日の申し送りをしっかり行い、意見交換し介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は往診やご家族様対応で基本支援していますが、ご家族様の都合などにより、事業所で対応させて頂く場合もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、外部から語り部や健康倶楽部などボランティアを受け入れ、ご入居様に楽しみを増やすことを行っていました。現在は制限せざる得ない状況です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の受診等に関しては、家族様に状況を理解して頂けるように、電話等で共有ができ、かかりつけ医に状況を詳しくお伝えしています。	かかりつけ医への通院は家族が対応し、生活や身体状況は家族へメモ伝言等にて伝達している。協力医の往診対応者は、2週間に1回往診を受け看護師等が心身の状態を報告し、受診結果は病院診断・処方記録に記載して情報の共有を図っている。電話で受診結果は家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状態の変化やご入居様の気づきに関して、伝え相談できています。また、看護師からもチームへ情報の伝達、共有し連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院される時は、入居様のカルテを持参し、情報を病院に提供し、入院経過や退院時の情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針に関しては契約だけでなく、状態の変化に応じて、医療関係者、ご家族様に確認し、家族様の意向としてお聞きし、終末期に向けて支援をしています。また、チームでどのように対応して行くか話し合いをしています。	重度化・終末期対応の指針により説明し同意書を取り交わし対応している。看取りの対応事例も有り、状況の変化に応じて家族の意向をその都度確認して対応している。主治医、看護師スタッフと連携を図り看取り等に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあるが、活用されていない。職員誰もがわかる所に置き、理解していない職員がいるので、スタッフ全員が対応できるように勉強会をしなければならない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	屋間の火事に関する訓練に対する訓練は、2回しか行っていない。地域の方には何かあった場合は協力をお願いしています。	避難防災訓練の年間計画が作成されておらず、ハザードマップ等の確認、風水害対策や夜間対応の訓練がなされていない。年2回の避難訓練を実施しているが、災害時の連絡網に地域協力者の記載が無い。避難通路の非常口の前に大きなソファがあり、非常口の外の段差の解消など改善が必要と思われる。	前回の外部評価時の問題点や目標達成計画の取り組み項目の改善がなされていない。コロナ禍ではあるが、感染防止を図りつつ夜間や風水害など様々な想定の実施と地域との協力体制の構築に向けた取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳とプライバシーに配慮した言葉遣い等を意識して気をつけ、不適切ケアチェック表で振り返り、不適切ケアだと感じる場合は、注意し考える機会をつくり、言葉遣いの研修などに参加し、ご入居様の尊重したケアに取り組んでいます。	排泄・入浴・移動時等は、近くに寄り添いプライバシーに配慮した的確な言葉かけを行い対応している。意思確認が困難な利用者に対しては、特に表情行動等を察知して声掛けを行っている。特にスピーチロック等にならない様に考慮して対応している。研修等を行い職員への周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、着替えなどに様々な支援の中で、希望をお聞きし、ご自分で選択できる場面を作って頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話する機会を多く設け、希望を聞き、実現できるように努めています。毎日入居様から希望を聞き出せてはいないです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居様には、起床後洗面台にご案内して、ご自分で出来るご入居様には、髪を梳いたり、温かいタオルで顔を拭いたりしています。お化粧品に関しては、イベント時しか化粧していません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様全員で行うのは難しいが、出来る限り一緒に行い、ご入居様から好きな物をお聴きしたり、季節にあった物を参考に料理の献立を行っています。	入居時に本人や家族より好物・嫌いな物・アレルギー等の情報把握を行い毎日の食事メニューに反映している。季節ごとの行事料理、誕生日等の行事食に関しては特に力を入れ対応している。利用者に応じてペースト食等の食形態を検討し対応している。利用者には食事準備や片付け等の手伝いなど、関連した作業に参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフで栄養バランスを考え献立表を作成しています。また、生活記録シートで一日の食事量、水分量を把握しています。水分はなるべく1000cc以上飲んでいただくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に必ず行うようにしています。事業所で口腔ケアチェックシート作成し毎食後チェックしています。希望があるご家族様は訪問歯科も利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録シートで排泄の時間、量の記入をして排泄を把握しています。トイレを利用されている入居者様は支援が必要な場面のみ支援させていただいています。	生活記録シートの排泄確認チェック表により水分摂取や排尿排便を確認して記載し、毎日一人ひとりの排泄状況を職員間で共有し対応している。乳製品を多く提供し体操を行って出来るだけ自然排泄に心掛け、午前午後排泄誘導の声掛けを行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように乳製品などを多く摂取いただくようにしています。また、予防のために毎日ではできていませんが、ラジオ体操や事業所独自の体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただくために入浴剤など使用しています。なるべく入浴日数がたまらないように毎日色んな入居者様に声掛けをしています。	入浴は、基本週2回を目標として対応している。車椅子やシャワー浴等の介助の負担の大きい利用者は、併設のデイサービスの大きな浴室にて、安全な入浴対応をしている。入浴拒否などの場合は、同性による介助や時間曜日を変更したり複数回の声掛けを行い入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が気持ちよく入眠していただくために、週一回必ずリネン交換を行っています。また、加湿器を持参していただき空気が乾燥しないように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や効果が分かるように看護師のほうで勉強会などを開催していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの影響で外出は難しいですが、入居者様とお話しをしやすいことを聞いたり、イベントを増やしたりご本人様が楽しいと思える支援を意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年小旅行を行っていますが、今年もコロナで中止になってしまいました。出掛けるのは難しい状況ですが、庭で芋煮会やバーベキューなどを行っています。	コロナ感染防止の為にあまり外出対応が出来ていないが、出来るだけ工夫して、庭先でのイベントや緑地帯(市の都市緑地・緑道)の散歩、少人数での白鳥見学・花見などのドライブ見学を行っている。病院受診や美容室等は、家族対応にて外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はほとんどの入居者様は所持していません。外出できていないのが現状なので使用もできていないです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙を書いたり、電話をする機会はあまりないですがご本人様の要望をスタッフからご家族様に伝えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常にきれいを意識して、入居者様に不快を与えないように努力しています。空気の入替えなども定期的に行っています。季節の物を飾れるといいと思います。	共有のスペースは、清潔に整理整頓されており、室内には光かりも穏やかに入り、騒音も聞かれません。外には緑地帯が見え居心地よく過ごせる環境になっている。季節感を感じるひな人形等が飾られており、畳の小上がりで利用者の方々が笑顔で談笑している様子が見られ心地よく穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく気の合う入居者様同士と一緒に過ごせる空間をつくり、一人になりたい入居者様は一人でくつろげる空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室は居室担当者が中心になって、居心地よく過ごせる環境作りを行っています。また、馴染みのあるものも置き、その人がその人らしくいられるような居室にしております。	居室内にはベット・エアコンが完備され、自宅から持参した馴染みの家具等が配置されている。定期的に換気、室温調整や環境整備等がされており、明るく程よい通気も保たれている。個々に色どり良い、手作り作品や馴染みの小物などで、その人らしい居室づくりがなされている。ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はすぐ自分の部屋だどわかるようにネームをつけています。廊下やトイレには必ず手すりが付いており安全で自立した生活ができるように工夫しています。		